

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2004-24798

(P2004-24798A)

(43) 公開日 平成16年1月29日(2004.1.29)

(51) Int. Cl.⁷

A62C 5/00

F I

A62C 5/00

テーマコード (参考)

審査請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願2002-218906 (P2002-218906)

(22) 出願日 平成14年6月23日 (2002.6.23)

(71) 出願人 502245635

瓦谷 拓平

京都府宇治市伊勢田町中山4-9番地3号

(72) 発明者 瓦谷 拓平

京都府宇治市伊勢田町中山4-9番地3号

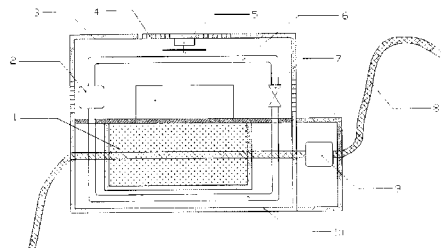
(54) 【発明の名称】 冷却消火装置

(57) 【要約】

【課題】従来の普通の水を撒くなどだけでは燃焼物の温度をそれほど下げることが出来ない。

【解決手段】本発明は、消化剤を冷却して使用することにより、燃焼の条件である燃える物、燃やす物、燃えるのに十分な温度のうち、空気と温度と燃焼物の温度を下げることにより、消火を助ける。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

消火液の冷やして温度を下げることにより、燃焼を抑えて、消火を助ける。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、燃焼に必要な要素の、燃える物、燃やす物、燃えるのに十分な温度のうち、消化液を冷やすことにより、燃焼場所の温度を下げることで、燃焼や、延焼等を抑えて、消火を助ける技術に関するものである。

【0002】

【従来技術】従来技術としては、普通の水を放水する。泡を噴射する。消化剤を撒く等の方法が存在する。 10

【0003】

【発明が解決しようとする課題】従来普通の水を撒くなどだけでは燃焼物の温度をそれほど下げることが出来ない。

【0004】

【課題を解決するための手段】本発明は、消化剤を冷却して使用することにより、燃焼の条件である燃える物、燃やす物、燃えるのに十分な温度のうち。空気と温度と燃焼物の温度を下げることにより、消火を助ける。

【0005】

【発明の実施形態】以下、本発明の実施の形態について説明する。消防車が汲み上げた消化剤を冷却タンクに通すことにより、冷やし、これを放出することで、温度を下げて燃焼を抑える。 20

【0006】

【実施例】以下、本発明の実施例を説明するが、その要旨を超えない限り以下の実施例に限定されるものではない。消防車の消火装置、建物の消火装置、ヘリコプターの消火装置、船舶の消火装置。持ち運びの消火装置。

【0007】

【発明の効果】燃焼を抑え、延焼を防ぎ、周囲の温度を下げることにより、消火を早め人的、物的被害を減らして2次災害も抑える。これにより、人的被害を減らすことができる。 30

【0008】

【図面の簡単な説明】

【図1】冷却消火装置を示した正面図である。

【符号の説明】

(1) 冷却タンク

(2) コンプレッサー

(3) 制御装置

(4) 通気孔

(5) ファン

(6) 放熱部 40

(7) 弁

(8) ホース

(9) ポンプ

(10) 冷却部

【図 1】

